

縁がわ通信

令和4年 春号

鳥取市議会議員太田ゆかりによる鳥取市政レポート



鳥取市議会議員
太田ゆかり事務所
〒680-10011
鳥取市東町1丁目127番地
TEL 090-1225711080
Eメール info@engawa-yukari.com



QRコードをスマホ等で読み取ると太田ゆかりの最新情報が見られます。

ご意見、ご要望をお聞かせください。

太田ゆかり公式ホームページ
http://engawa-yukari.com
鳥取市のあり方や、具体的な政策を提言し、社会に問いかけていきます。また「議会報告」日々思うことを発信中。ぜひ一読ください。

SNS やっています。

engawa_yukari
engawa_yukari

市民の創意から
市民のまちづくりを
創る

本紙の本文は令和3年度の太田ゆかり「市議会定例会」から抜粋したものです

潤いのある楽しい鳥取市に!

太田ゆかりの思い—鳥取市のまちづくりを提案

復元された鳥取城跡大手橋

新たな社会に向けて 磨こう!鳥取の資源

6月議会での主要質問項目

1. コロナ禍における地域資源を活かした地元産業の連携強化について
2. 歴史資源を活かしたまちづくりの推進について

今こそ鳥取の林業の再成長を

世界規模で木材不足となり価格が高騰する“ウッドショック”が発生しています。鳥取の山は貴重な地域資源です。鳥取市は70%が森林に覆われており、この10年間豊富な降水により、緑豊かな林地が形成されています。流域全体の総合的治山治水の推進と共に鳥取の林業を再成長、成長産業にする絶好の機会です。

森林は、太陽の光の下でCO₂を吸収し、炭素をため続けるため、ゼロカーボン社会、脱炭素社会に果たす役割は高く、リラクセスなど、心身に良い影響を与える効果も期待できます。新たな時代に向けて、新たな消費者ニーズを認識する林業の取り組みが必要です。

(深澤市長)鳥取市で戦後植林をされた杉、ヒノキ等が伐期を迎え、森林資源を活用が課題になっている。ウッドショックの対応は、中期的には増産に耐え得る供給体制の構築が重要であり、森林経営管理制度を利用し、森林の集積化を進めるとともに需要を確保する取り組みが必要。千代川流域林業成長産業化推進協議会で、関係者一体となって取り組みを進めていく。



鳥取に歴史的建造物は大変多い。その社寺や古民家の多くは、伝統的木造構法で建てられている。(写真は重要文化財の鳥取東照宮と仁風閣)



事業者支援、新たな都市交流

コロナ禍の中で鳥取市の経済全体は厳しい状況です。多くの支援事業は売上げが30%以上減少した事業者が対象ですが、実際は経営不振が長く続いている事業者も多くあります。そうした中でも新たな時代にマッチした業態転換や新規事業への参入を図る取り組みなど、アフターコロナを見据えた取り組みを行おうとする地元の事業者を幅広く支援することは、鳥取市の活性化の鍵になると考えます。

(深澤市長)売上げの影響を受けていない事業者においても、アフターコロナのニューノーマルに対応した商品やサービスの開発・提供、新分野への展開や業態転換等を行う必要があると考えている。公的な支援を行うべきと判断した分野について補助事業の導入も検討する。

太田ゆかりはこう思う。

新型コロナウイルスによる需要減からの回復に、地元での消費拡大が急務。消費者の要望にあった生産のため、鳥取の産業全体の活性化を目指した商工農学官連携の強化が今以上に必要である。

9月議会での主要質問項目

1. 一層激しい気候ならびに気象への対応について
2. 多文化共生社会を実現するまちづくりについて
3. 地域の歴史資源を活かしたまちづくりについて

久松連山と城跡の治山治水

久松山系の多量な水の排水処理は、長年にわたり先人が工夫して、袋川を経て千代川へ排水してきました。しかし近年は異常気象が続き降水の形態も変化し、局所的に1時間100ミリを超えるような激しい降水が長時間にわたって続く事態が起きており、鳥取城跡周辺の水害等、被害も想定せざるを得ません。これに対応するには、国・県・市、今まで以上に各

機関が連携し対策を検討すべきです。
市民には、鳥取城跡の石垣の崩落の原因が現在の城跡整備によって“水道(みずみち)”が変わったと心配する人の声も少なくありません。江戸時代の鳥取城には「鳥取堀」という貯水をする機能があり、河川に一気に水を流すことを避けていました。久松山系の水量が多いので取り組み体制を強化すべきです。

(深澤市長)計画排水量等に対応しきれないこともこれからは発生するのではないかと。鳥取市だけではなく国・県・市、また関係者の皆さんとしっかり連携を図りながら、対応を改めて考える。

多文化共生社会のまちづくり

外国人の方は行政手続きの“ペーパー主義”に驚きます。所管が異なると、再度申請書に住所や名前など同じ内容を改めて記入が必要です。書類を一元化して、手続き負担を軽減すべきです。

また災害時における外国人住民の方への情報伝達、避難所での対応についても課題があります。大切なことは日常生活に必要な情報を親切に伝え、相手の立場に立って市政を運営すること。鳥取に住む外国人のために行政制度や情報を分かりやすく伝えていただきたい。

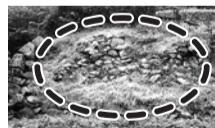
(深澤市長)行政手続きを継続的に改善し、デジタル技術も活用しながら、行政手続きの負担軽減に努めたい。災害時の外国人の方への情報提供についても研究したい。

太田ゆかりはこう思う。

高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律(バリアフリー法)に基づく市民の利便性向上や各種手続きの負担軽減だけでなく、心のバリアフリーが最も大切です。

※鳥取城跡の石垣の崩落

令和3年7月の大雨により「仁風閣裏側の西坂下御門脇石垣の一部」が崩落。



点線内が崩落箇所

自発的な行動で新しい社会に対応を
地元消費の拡大と新たな需要の創出



新型コロナウイルス感染症拡大で我々の日常生活は大きく変化しました。そして、情報通信技術の普及により人々の生活様式やビジネス様式の変化も大きく加速しました。テレワークの推進で働く場所の制約がなくなれば、生活の価値観そのものが大きく変わる可能性もあります。

地場産業は、地域住民の生活を基礎とした生業であり、地場産業の活性化は地域住民の生活の向上に直接つながります。地元企業が事業継続を無理なくできる環境を整えて、農工商連携を深めて官学も応援する。社会情勢の変化をチャンスにして、今こそ地域経済の活性化を図っていく行政の姿勢が重要だと思います。

線状降水帯※による豪雨の水源は、実は海水です。海面の温度が上がり、蒸発する水量が増え結果として豪雨となります。気象条件が年々激しくなることが必ず定ならば、従来の災害対策では対応できない。新たな遊水池や水路を設けて水流を分散させるなど、地域に適した災害対策を検討すべきではないか。いっそう厳しくなる気象への対応について鳥取市が自発的に動かなければなりません。

昨年行われた2020東京オリンピック・パラリンピック大会では、日本の若いアスリートの多言語対応やコミュニケーション力が発揮される場面が多く見られ、多文化共生社会の始まりを強く感じました。オリンピックを契機に国はユニバーサル社会の推進を加速度的に取り組みました。高齢者や障がい者、健康者にもやさしいユニバーサルな社会を目指すことが、鳥取市に求められます。

鳥取市には中国連山に海・川・湖・日本一豊かな砂丘に豊富な温泉もあります。多くの地域資源をつなぎ、一体的に活用することができれば、その魅力を増やすことができ、地域の活性化につながります。地域の歴史資源を活かした地域の活性化について、アフターコロナを見据えて、今こそ地域資源の歴史性を丁寧に活かし、まちづくりや地域の魅力向上に活用することが重要と考えます。



復元された鳥取城跡大手門を城側から望む

※ 線状降水帯…太平洋の温かい空気と大陸の冷たい空気が衝突し前線が停滞して、局所的な集中豪雨地域が線状になる現象。

既存建造物のアメニティーの向上と脱炭素社会

日本家屋は地域の気候風土に対応するため、地域の資源を活用して快適な暮らしを満足させてきました。鳥取では杉材が多く使われ、雨や雪対策として雨戸・ひさし・縁側が必須です。床下や天井に土を敷き詰め、暑さ寒さの快適性、防火の安全性を高めた歴史があります。地域に根づいてきた住まい方や建築文化から、脱炭素社会に向けての工夫をまず見だし、それを基本として必要に応じた新たな工夫を加えることが重要です。

歴史ある「麒麟のまち圏域」の温泉

岩井温泉、湯村温泉は西暦800年代の開湯と伝えられ、吉岡温泉も962年の開湯で、鹿野城主となった亀井茲矩公による整備を経て、江戸時代には鳥取藩主池田家の湯治場として栄えました。鳥取温泉、浜村温泉は明治時代の開湯とこちらも長い歴史を持ちます。

不信が残る旧市役所庁舎解体 令和4年度鳥取市一般会計予算には反対です

旧本庁舎は、2回の災害を教訓に設計された当時の最先端の建築技術を駆使した歴史的建造物で、地下室は薬研堀を底まで掘って杭を打ち固めた基礎を築き、耐震性を確実にした建物でした。しかし、鳥取市はSDGsを宣言し建物のリノベーションや活用を推進しているにも拘らず、旧本庁舎の歴史的、文化的価値を認識することなく解体のみを進めました。

旧本庁舎・第二庁舎の解体は、令和3年度当初予算において経費を軽減するため地下構造物を残して行うことが決定。私は負債を次世代へ残すのはよくないとの当初予算に反対しました。すると令和3年度途中で跡地の活用方針と地下工作物撤去方針が示され、令和4年度当初予算で地上部分の解体と地下工作物も解体することになりました。私は新庁舎建設において、事前に土地に関する調査を行い全体計画を決定すべきと何度も述べてきましたが、跡地活用の方針やまちづくりのイメージを示すこともなく、解体事業のみが推進されました。有利な財源も生まれず工事費用がかさみ、解体工事の全体工期も延び全く不合理で計画性がありません。従って、賛成することはできません。

12月議会での主要質問項目

- 1. 市民ニーズを把握した誰もが暮らしやすいまちづくりについて
2. 歴史遺産を大切にしたいまちづくりについて
3. 地域資源を活かした暮らしとまちづくりについて

歴史遺産を大切にしたいまちづくり

長年復元整備を行ってきた鳥取城跡は、メディアでも鳥取城の特集が取り上げられたこともあり注目が集まり、県内外から訪れる人々が増え、にぎわいが生まれ始めています。

しかし、城跡の周辺整備はまだ不十分です。周辺地域を整備することによって、文化財の価値はますます高まります。歴史遺産を大切にしたいまちづくりは、地域の人々に誇りと自信を生みます。市長はどのように受け止めているのか伺います。

(深澤市長) 地域資源を市民の皆様と共有して保全して磨き上げる、そして広く周知、発信をして活用していくことは郷土の魅力を再確認し、郷土を愛する心の醸成につながる。本市のシンボルである鳥取城や久松山が注目評価されることは、今後の整備や観光振興にも追い風になると考えている。

太田ゆかりはこう思う。

文化財保護法の改正により、地域の資源を総合的に活用することが求められています。鳥取城跡と山の手通り一帯の活性化のため、池田家由来の文化財から歴史的建造物まで、鳥取市の歴史文化資源を全庁横断的に研究した整備活用計画も早急に作成すべき。



久松連山のふもとには、多くの寺社が集中する「歴史的文化遺産集積地区」

市民ニーズに沿ったサービス

行政手続のデジタル化については、スマホアプリや国のマイナポータル活用が進められています。しかし「使いたい」という内容ではないのが現状です。

例えば、障がいを持っておられる方は移動にも時間がかかります。限られた時間の中で申請のために病院と市役所を往復することは体力と時間的にも大きな負担です。診断書を安全なファイル形式などでやり取りできる仕組みを検討するなど、ICTを活用してオンラインでの窓口対応や、各種要望などについても市民の声を聞きながら調査・研究を進めていくべきと考えます。

(深澤市長) ICTのサービスの導入にあたっては、窓口手続きや各種相談対応の際などに市民の皆様の声の伺い、ニーズをしっかりと踏まえた上で行政手続きのデジタル化を進めていきたい。

※「マイナポータル」とは政府が運営するオンラインサービス。マイナンバーカードを使った様々な行政の手続きやお知らせの確認がオンラインで24時間できる。「ICT」は情報通信技術の略で、通信技術を活用したコミュニケーション。

2月議会での主要質問項目

- 1. 文化的景観から考える産業育成と地域活性化について
2. 地元資源を活用した既存建造物のアメニティーの向上と脱炭素社会
3. 地域の歴史資源を活かした魅力づくりについて

1661年から1673年の寛文年間に鳥取藩が作成した、鳥取平野を描いた最も古い絵図である寛文大図を見ると、城下町、城と城下町、山の手通り、街道と周辺集落との関係がよく分かります。

日本の拠点を日本橋にしたように、鳥取は擬宝珠橋が街道の拠点になっています。21年3月に擬宝珠橋が再興されましたが、この拠点となる橋を“令和の拠点”として位置づけることで、中心市街地の活性化にもつながると考えます。

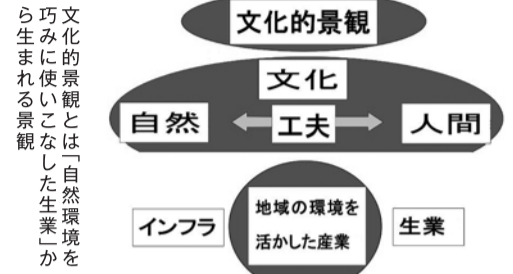
(深澤市長) 城跡観光推進ゾーンである久松公園一帯のにぎわいを面的に広げることには大変重要で、城跡周辺を訪れる観光客や市民の皆様を袋川以北の城下町エリアにも誘導していくための仕掛けが必要。城下町の歴史や遺構などの情報発信や普及啓発、質の高い案内ガイドスタッフの養成、情報発信や休憩などのための拠点づくり、2次交通の充実などの取り組みが考えられる。

文化的景観と地場産業と風土保全

平成16年に文化財保護法が改正され、文化的景観が加わりました。ここでの文化的景観とは地域の人々の営みと風土の関係で生まれる景観であり、人々の生活と切り離すことのできない景観です。自然災害が定常化し、少子・高齢化が加速する今日、この文化的景観を維持することが重要です。

また、激甚化災害が定常化し、農地の宅地開発が進み、内水排水能力が低下しています。そうした中で先人の知恵に裏づけられた貯水・利水が見直されています。流域治水について見解を伺います。

(深澤市長) 河川管理者による治水対策と農業者の協力による田んぼダムなど貯留機能を拡大して、氾濫をできるだけ減らすための対策を関係者とともに行う。文化的景観はその価値を正しく評価し、地域で守り、次世代へと継承していくことが大切と考える。



麒麟のまち圏域の棚田と温泉の活用

国府町の京ヶ原棚田が棚田遺産に選定され、麒麟のまち圏域でもある若桜町つく米にある棚田は「日本の棚田百選」にも認定されています。しかし、耕作地ではない棚田が増えているのが現状です。鳥取市がリーダーとなり、麒麟のまち圏域の棚田保全の活動の連携が必要です。

麒麟のまち圏域各地には温泉があります。各温泉には由緒ある歴史があり、それをキーワードに、圏域の皆さんが交流する機会や取り組みを増やすべきです。圏域を訪れる方々に長く滞在してもらうためにも、兵庫県側も含めた圏域の温泉を巡らせる工夫、取り組みが必要です。

(深澤市長) 棚田の保全活動の連携は(圏域の)構成町に語りたい。圏域住民が、お互いの地域のよさを理解し交流することは、圏域の発展に大変重要。スタンプラリー事業に、温泉の活用なども組み込み圏域相互の交流が深まる取り組みをしたい。



若桜町の美しい「つく米の棚田」

久松山系の水害対策が急務です!

久松山の砂防河川として天徳寺、水道谷、栗谷があり、各河川とも上流部は県、下流部は市が管理しています。これらの河川には砂防堰堤1基、治山堰堤1基があり、鳥取東照宮周辺の雨水排水対策は昭和53年、雨水排水の側溝や貯留管、秋里雨水ポンプ場の整備、栗谷雨水幹線が整備されています。しかし、これらの設備は1時間50ミリの計画降雨量での整備であり、江戸時代の地下配水池が廃止され、降水量の変化に対応し難しくなっています。降水形態が変化し激しい降水が長時間続く今日、市民の安心安全な暮らしを守るために、9月議会質問「久松連山と城跡の治山治水」で市長から「関係機関の連携が必要」との答弁を引き出しました。(本紙1面)



太田ゆかりの主な成果と実績

(太田の提案から政策、新たに検討も始まりました)

- 城跡と山の手通りの寺社仏閣と連携した魅力づくりの提案が具体化しました
● 市民に分かりやすいビジョンの必要性、城跡と城下町エリアの一体的な活用が進んでいます

- 6月議会 コロナ禍における地域資源を生かした地元産業の連携強化/鳥取城跡の特集を設けるなど、情報発信の強化/姉妹都市の連携強化
9月議会 外国人の行政手続きの負担軽減/災害時の外国人への情報提供の強化
12月議会 福祉手続きにおける申請者の負担軽減の促進/専用アプリの導入で障がい者の利便性向上の促進
2月議会 文化的景観維持と国土保全及び農業の維持発展/麒麟のまち圏域連携による棚田保全活動支援体制、温泉活用の連携強化/城跡と城下町を巡る取り組み強化

